



■主催者挨拶

このJP環境フォーラムは、1999年より毎年開催してまいりまして、今回が11回目となります。このように回を重ねることが出来たのも、ひとえに、これまでのフォーラムにご来場いただきました皆様方のご協力のたまものと感謝申し上げます。

環境問題が社会や経済に与える影響の大きさが認識され、世界各国が環境負荷低減と経済成長とを両立する取り組みを模索するなかで、持続可能な社会の構築に向けた企業の取り組みへの期待は、ますます高まっております。

当社は、長年にわたり、紙素材を取り扱う流通業の立場で資源循環型社会の構築に貢献すべく、紙に関連した環境配慮型商品の需要開拓や、古紙再資源化の推進に努めてまいりました。さらに近年は、紙資源のリサイクルに留まることなく、木質系・プラスチック系リサイクル原燃料を活用する事業にも、取り組みを広げております。

当社は、今後も、環境保全と経済成長との両立に貢献する様々な施策を、着々と実行することで社会的責任を果たしてまいりたいと考えている次第です。

さて、国際社会は地球温暖化防止の新たな枠組みづくりに向けて、大きく動いております。米国ではオバマ新政権がエネルギー・環境政策を戦略分野として位置づけ、またわが国においても新政権が温暖化ガス削減について、2020年までに1990年比25%削減という高い目標を国際社会に打ち出し、今後の動向が大いに注目されております。

本年のフォーラムは、そうした動きを踏まえ、第一部講演では、環境省のご出身であり、現在京都大学にて環境政策研究に当たられていらっしゃる一方井誠治様に、わが国の環境経済政策とその課題についてお話しいたします。

そして後半、第三部では、環境を重視した経済活動の中で求められる企業の役割について、経済・環境ジャーナリストとしてご活躍され、多くの著書がございます三橋 規宏様にご講演いただきます。

また、昨年同様、第一部講演の後にお時間をいただき、古紙再資源化事業を核として展開を広げております、当社グループの環境事業を紹介させていただきます。会場のロビーにおきましても、当社の環境関連事業、環境配慮型商品の一端を展示させていただいております。

私どもは、今後とも様々な形で、皆様とのコミュニケーションを図り、環境保全に向けた企業の役割について考えていきたいと思っております。

本日の講演、展示が、ご参加いただいております皆様にとりましてなんらかのご参考になれば、主催者として、この上ない喜びでございます。

日本紙パルプ商事株式会社 取締役社長 松谷 克